

彼岸だより

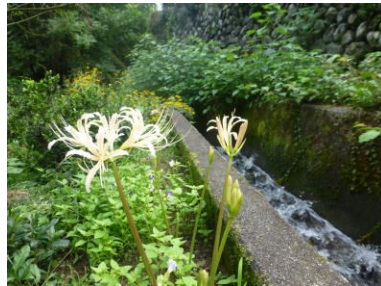
東澤山 菜流寺
住職 武山清堂
〒 421-2102 静岡市葵区油島 122
電話 054-294-0542 秘在寺へ

◆お彼岸

今年もお彼岸の季節になりました。厳しい暑さも去り、大自然が穏やかで心が落ち着いているこの時期、亡き人や先祖を思い、生かされている自分や家族のことを感謝したくなるのは、自然の力と人間の命が感応するからでしょうか。

一族の墓の鬘より曼珠沙華

かげ まんじゅしゃげ



という句がありますが、山かげや寺の墓地で雑草と野生の花にまつまれている墓は、命の帰るべき場所を明示しているような気がします。

(中野東禅)

山口草堂



◆秋期特別布教

(静岡東教区第一支所主催)

本山の布教師さんによる法話会が開かれます。是非お出かけ下さい。

会場 秘在寺

日時 十月十九日(月) 十時から

演題 「おかげさま」 ～ 社会の恩 ～

生かされ支えられ

講師 長崎県平戸市是心寺住職 辻 良哲師
参加ご希望の方は十月三日までに秘在寺へお申し込み下さい

◆お施餓鬼

八月九日、午前十時より施餓鬼会(せがきえ)が行われました。例年通り法要が厳修され、会計報告が済んだあと、長寿者などの表彰が行われました。

安倍七ヶ寺住職による読経



◆草刈りを ありがとうございました

おかげさまで、広い範囲がきれいになりました。



成人・長寿者表彰 ↓



療術師大津哲治氏講演

◆ご案内

○お参りの旅「比叡山」

十一月十六日(月)～十七日(火)
参加費 三万円

十六日午後はボランティアガイドさんに案内していただき、山内の横川と西塔を拝観します。宿泊は延暦寺会館で精進料理です。翌朝、根本中堂で朝のお勤めに参加、朝食後、東塔を拝観して比叡山をあとにし、長浜に寄って黒壁スクエアなどを散策します。

こちらからバスで行きます。
ご案内を同封しますので、代金を添えてお申し込み下さい。

○数珠つくり

十月六日(火) 午後一時半

○精進料理を楽しむ会

十月十四日(水) 十一時食事開始
全福寺 現地集合
会費 四千元

七日までに秘在寺へお電話下さい。
この日は第二水曜で写経の日ですが、常通り午後一時半から写経をします。

◆ご報告

○子ども座禅会 八月二十～二十一日

静岡新聞にも載りましたが、子ども座禅会が秘在寺で行われました。参加の小学生四十三名に対して、お世話する如水会会員の若い和尚さんたちが二十名という何とも贅沢な二日間でした。禅宗の和尚さんは僧堂修行の経験があるので、流しそうめん・バーベキュー・朝のお粥と

味噌汁の準備など大量の炊事も難なくこなします。
以下、副住職の記録です。

私も所属する静岡・藤枝の臨済宗青年僧による如水会主催の、第九回子ども座禅会が行われました。今年には私が実行委員長だったので、秘在寺で行う事にしました。

今年はこの田舎で体験できる内容を前面に出して検討してきましたが、当日まさかの雨模様・・・。それでもなんとか小雨程度で済んだので予定を大きく変更することもなく、事故やケガもなく無事に二日間過ぎることができました。本当にホッとしました。

例年人気が高まってきたのか募集をしてもあつという間に定員に達してしまいました。それでもなんとかたくさんの方に参加してもらえよう、今回は新しい本堂・古い庫裏・友達から借りたテントと三箇所に分かれて泊まってもらいました。私はこども達と一緒にテントに泊まりましたが、大きなテントに子供達は大きいわがでちつとも寝ないので大変でした。でも今の時の小学生事情を色々聞けて面白かったです(笑)

坐禅をしたり正座をして食事をしたり、草抜きをしたりと楽しいばかりではありません。来年は会場は違います、また実施しますのでぜひご参加ください



○断水

郷島では七日、朝起きたら断水してしまいましたね。去年のお施餓鬼の時、断水して大騒ぎしたのを思い出しました。時節柄、洗濯の出来ないのはつらいけど、仕方ない、復旧は翌日昼頃になりそうと言われて覚悟を決め、さてどうしましょう？

食事は無理せず、昼も夜も買った物で済ませることにして、三十リットルのポリタンクに山の水を入れて台所に置きました。給水車が出ていたので、そちらで貰うこともできましたが、旧の庫裏には山の水の蛇口があるので、うちではそれを汲んだ方が楽です。そうなんです、今までの建物に住んでいれば、台所も風呂場も山の水が出るので、さして困らないのです。



3カ所に給水車が用意されました。

それから二リットルのペットボトルにも何本か水を入れて洗面所などに置き、歯磨きや手洗いに使いました。沢の水の出る蛇口が外にあるので（これは飲めません）トイレはこの水をバケツに汲んで置いておき、流しました。いただき物の濡れティッシュをポケットに入れておいて、ちよつと手を拭く時にはこれ。

実際の災害の時にはこんなも
のではないでしょうけど、自主
防災訓練みたいな感覚で断水と
つきあつてみました。



うちでは普段から「缶詰・乾物は多めに買う。古い物から順次食べて常に一定量は確保」を心がけています。ちなみに麺類は乾麺を使いません。冷凍食品は停電になれば役に立ちません。トイレトペーパーとティッシュも常時多めに買い置き、ガソリンは半分になったら給油（これはなかなか守れませんが）を心がけています。お施餓鬼の時に使った紙皿も残っています。お施餓鬼の時に使った紙皿も残っています。お施餓鬼の時に使った紙皿も残っています。

断水は予定より早く、七日深夜には復旧しましたが、雨の中を夜中まで工事に携わった皆様、大変だったと思います。翌日の静岡新聞に「取水ポンプの故障で断水」と載っていました。モーターが壊れたので、急きよ手配して、新しいものに取り替えたのだそうです。



◆お知らせ

○塔婆入れかごを設置しました

古い塔婆をそのかごに入れて下さい。お墓に新しい塔婆を立てたら、古い塔婆は下げてかごに入れて下さい。後日まとめてお焚きあげします。

なお、ゴミは、なるべくご自宅に持って帰っていただけるとありがたいです。ゴミ（花殻も含めて）は山には絶対に捨てないで下さい。

これが古い塔婆
用のかごです。



○白アリ

畳の沈んでいる所があり、大工の岡田さんに見て貰いました。畳を上げると、床板との間に白アリが列を作っていました。早く薬品を買って散布して貰い、白アリに食われた畳は新しくしました。



本山から毎月発行される「花園」の中から佐々木閑（しずか）氏による「幸せとは何か」をご紹介します。

佐々木氏は仏教学者で、京都大学工学部卒業の後、文学部哲学科を卒業、大学院博士課程満期退学、カリフォルニア大学バークレー校留学、現在は花園大学教授

です。NHK教育テレビ、「一〇〇分名著」では「ブッダ真理のことば」「般若心経」「ブッダ最期のことば」の三回にわたって講師を務められました。原始仏教の研究で知られています。元もと理系であつただけに、研究方法は科学的な方法をとるといふ姿勢なので、お話しとても理解しやすいです。「花園」には毎月「仏教があるさ」というテーマで寄稿なさっています。

幸せとは何か

佐々木閑

現代の人々は「なんとでも幸せになりたい」と、ひたすら幸せを追い求め、傾向にあります。それは当然のことだと思ひますが、そのために、一体何が自分にとつて「幸せ」なのかを考へなければなりません。

美味しいものを食べたり、好きなものを買ったり、それが幸せだというのは一向に構いません。それで世の中が動いているのですから、毎日好きな物が入って幸せだという状態はとても良いことです。「物質的幸せには意味がない」などと言うつもりは全くありません。ただし、そのハッピーな状態も、「老い」と「病」と「死」の前ではたちまち色あせてしまいます。



また「幸せ」の平均値というものを勝手に設定して、自分がその平均値の上にあるか下にいるかで計る幸せというものもあります。他人との比較による幸せです。

しかしこれは、自分が幸せな分だけ、どこかに不幸せな人がいるという状況を幸せと感じるので、劣悪な幸福感です。そしてこの幸せも、老・病・死に立ち向かうことはできません。「隣の家より立派な家を建てて私は幸せだ」という幸福感、たとえば難病にかかって死を宣告された後には何の意味もなくなるでしょう。物質的幸せや、他者との比較によって得られる幸せは、その状態がいつまでも続かないという点で「ひ弱な幸せ」です。状況が変われば、一瞬で消えてしまうのです。

しかし現代は、メディアの発達により、そういった幸せのモデルをいっぱい見せられるのですから、いつのまにか洗脳されて、「ひ弱な幸せ」を本当の幸福と思い込んでしまいます。自分で考えて納得した価値観ではなく、外から入ってくる情報に流されて刷り込まれただけの価値観に操られてしまうのです。真の幸福をつかみたいと思うなら、そういった押しつけの情報を跳ね返し、老・病・死にも耐えられる頑強な幸せのモデルを自分でつくっていかねばなりません。そのためには何よりもまず、情報に流されない生活を送ることが必要です。

私たちは毎日、多量の情報を取り入れています。情報が取り入れるということは、反面、自分で考えていないということを意味します。思考というのは、情報を取り入れた後、それを自分の中で再構成して、新たな視点を獲得することです。そこまでの作業が完成してはじめて「自分で考える」ということになるのです。



ですから、外の情報を取り入れて、外の情報ではま

だ、思考していることにはなりません。簡単に言えば「テレビを見たり、仲間と喋っている間は、しっかり考えることができない」ということです。

仏教は本来、瞑想を修行の根本と考えますが、そのおおもとは「外部からの情報を一旦シャットアウトして、自己の思考を極限にまで高める」という姿勢があります。一点に心を集中させることで、自己の思い込みや刷り込みをはずり、ものごとの本質を見抜く力を養うというのです。よく「心を無にせよ」と言われますが、それは決して「ボーン」として何も考えない状態を指すのではなく、極限にまで心を集中させた結果として、余計な思いがすべて消え、一点に絞り込まれた状況を表現しているのです。

自分の人生において、何が大切で、何が不要かを決定していくためにも、そういった集中した思考がなにより大切です。いらぬ情報が入れば、その分、心は乱れます。迷いも生じ、判断も狂ってきます。他人が押しつけてくる外部情報に惑わされずに自分の頭だけで考えてみる時間、正しく思考し、決断する時間こそが、人生の大筋を決めていく大切な基本盤になるといえることを、常日頃から心得ておくことが大切です。



ところが残念なことに、現代生活においては、このような自力で考える時間を軽視する傾向があります。先ほど言ったようなメディアの発達による絶え間ない情報流入がその最大の原因ですが、それに影響されて、社会全体が「情報重視、思考軽視」の方向に進んでいるようです。仏教という宗教は、他人との比較では

なく、「昨日の私よりも今日の私は一歩向上した」というように、自分自身の内部での日々の向上を自覚することに最大の喜びを見いだす世界です。自分で考え、自分で決断し、自分で歩み、そして自分でその喜びを噛みしめる、それを最も充実した生き方だと考える世界です。これは、現代日本にみられる、「世間から押しつけられた価値観に沿って自分をつくっていく」という風潮に相反するものです。ですから、仏教的に生きることは、決して世の中から賞讃されることではないでしょう。「もう少し賢く立ち回ればいいのに」とか、「きれいな事ばかり言っていないで、現実をみなさい」などと言われるのです。

しかし人生の全体を長い目で見たとき、本当に満足のできる生き方はどちらでしょう。か。「私は他の人からの借り物ではない、自分自身で誇りを持って決めた生き方を貫いてきた」という思いこそが、人生を最後まで支えてくれる最強の拠り所になるはず。たとえ物質的幸せが失われ、他人との比較による幸せが崩壊しても、「自分の人生を自分で決めてきた」という満足感、充足感だけは決して失われることはありません。そしてそれを手に入れるための唯一の道は、自分で考え、自分で決めることです。

二五〇〇年の昔に、お釈迦様が説いた仏教の教えは、決して現代社会の主流ではありません。しかし、そこには、現代の軽薄な価値観では決して実現することのできない、確固とした「幸せへの道」が示されています。時にはテレビもインターネットもシャットダウンして、お釈迦様のように、自分の在り方にじっと思いをこらす時間を持つことも必要でしょう。

※ 妙心寺派会報「花園」九月号より転載